

No.58
2018
10/24



はちおうじ

JR東労組
八王子地本
八王子地本
ホームページ
「東労組八王子」で検索



八地申 第6号「八高・川越線209系ドア故障に対する緊急申し入れ」提出

不安全な車両はお客さまに提供できない

八地申 第6号
2018年10月23日

東日本旅客鉄道株式会社八王子支社
支社長 坂本 浩行殿

東日本旅客鉄道労働組合
八王子地方本部
執行委員長 金井 正明

八高・川越線209系ドア故障に対する緊急申し入れ

10月6日(土)、川越線1675H川越駅にて1号車の車側灯が点灯しない事象が発生し、さらに川越線1974H笠幡駅発車の際に車掌がホーム側の車掌スイッチを扱ったにもかかわらず、ホームと反対側のドアが半自動状態で開扉する事象が発生しました。当該乗務員は直ちに防護無線を発報して列車の抑止手配と車両点検を行い、指令へ回送扱いの要請をしましたが、安全の担保がないにもかかわらず継続運転が実施され、その後2176Hでも同事象が発生し、ようやく回送扱いの指示が行われました。

反対側のドアが半自動状態で開扉したことは、お客さまの転落や併発事故を引き起こす重大な事象です。列車の最高責任者である運転士の判断や乗務員から回送扱いの要請が再三あったにもかかわらず、運転の継続をさせたことは、現場の声の軽視であり、現場判断を最優先とし命を守ることが出来た3・11東日本大震災の教訓から逆行しています。さらに、今事象についての対応も各職場では周知されておらず、会社としての危機管理能力の低下と言わざるを得ません。また、故障時にドアが開扉する構造は、フェイルセーフの観点から見ても安全上大きな問題であり看過できません。公共交通機関として、お客さまの命を第一とし、安全・安心な鉄道を提供するため下記の通り緊急に申し入れますので、会社の真摯な回答を要請します。

記

1. 1675Hの事象から回送扱いにするまでの61編成における時系列と事象に対する会社の認識を明らかにすること。
2. 現場の判断を尊重し、報告を正しく把握する体制の確立と迷いなく判断し、安全輸送の体制を確立すること。
3. 209系車両におけるドア故障の原因と対策の経過を明らかにし、対策が終了するまで209系の使用を見合わせる。
4. 車両メンテナンス体制の強化と故障個所の修繕を速やかに行う体制を再確立し、乗務員・お客さまが安心して乗車できる車両を提供すること。
5. 事象が発生したら直ちに全職場に周知を行い、対策を徹底すること

以上

10月6日、川越線で発生した209系車両においてホームと反対側のドアが半自動状態で開扉する事象が発生しました、当該乗務員も直ちに列車防護を行い指令に対し回送扱いの要請を行いました、継続運転が行われています。

一歩間違えばお客さまの死傷事故に繋がる大きな問題です。何より事象発生時の周知徹底を乗務員区ですべきです。同事象を二度と発生させないため、原因と対策を明らかにしなければなりません。会社の現場軽視、安全意識の低下を正しく改めさせ安全で安心出来る鉄道を目指すために下記の通り申し入れを行い、団体交渉で会社の考え方を明らかにしていきます。

■申し入れ内容■

1. 1675Hの事象から回送扱いにするまでの61編成における時系列と事象に対する会社の認識を明らかにすること
2. 現場の判断を尊重し、報告を正しく把握する体制の確立と迷いなく判断し、安全輸送の体制を確立すること
3. 209系車両におけるドア故障の原因と対策の経過を明らかにし、対策が終了するまで209系の使用を見合わせる
4. 車両メンテナンス体制の強化と故障個所の修繕を速やかに行う体制を再確立し、乗務員・お客さまが安心して乗車できる車両を提供すること
5. 事象が発生したら直ちに全職場に周知を行い、対策を徹底すること



命を第一とし、
安全安心な鉄道を
創りあげよう！